

## 令和2年度 第5回沼田市市民構想会議の概要について

1 日 時 令和2年12月16日（水）午後2時から午後4時08分

2 場 所 沼田市役所 第2委員会室（テラス沼田5階）

### 3 出席者

（1）委員 片桐徹憲委員、小野要二委員、井上滋光委員、生方秀二委員、  
小野里順子委員、田辺祐己委員、角田郁子委員、六本木勇治委員、  
小林好委員、鈴木誠委員、原口庄二郎委員 （11名）

（2）アドバイザー 篠田 暢之 氏

（3）沼田市 五十嵐副市長、川方総務部長、小林市民部長、石井健康福祉部長、  
藤井経済部長、坂田都市建設部長、諸田教育部長  
（事務局：矢代企画政策課長、生方政策推進係長、清水副主幹）

### 4 配付資料

- 次第
- 第4回沼田市市民構想会議の概要について
- 沼田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（進行管理）
- 提言書案
- 沼田市電子地域通貨「tengoo」パンフレット

### 5 概要

（1）開 会（事務局：企画政策課長）

（2）会長あいさつ

<生方会長>

群馬県内でもコロナウイルスの感染が広まっています。寒い時期でもあるため、身体には十分気をつけていただきたい。

（3）前回の会議結果について（事務局：企画政策課長）

「第4回沼田市市民構想会議の概要について」により説明した。

（4）議 題

1) 「沼田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の効果検証について

事務局から概要説明後質疑 ○委員 ●各部長等

目標1「安定した雇用を創出する」について

- K P I 設定の際、K G I の設定が必要であり、ゴールのない K P I ではどのように評価したらよいかわからない。
  - 重要業績評価指標（K P I）として年次目標を設定しており、現状値をもとに 5 年間の計画として設定している。
  - 目標の達成されていない指標の見直しは行うのか。
  - 第 2 期総合戦略が令和 2 年度から 5 年間の計画となっており、その進行管理の中で見直しを行う。
  - コロナ禍にあって大幅な見直しが必要となってくる。各事業はどのように展開されているのか。
  - 昨年度、市民構想会議において第 2 期総合戦略の策定にあたり議論いただいた。当時はコロナ禍を想定していなかったが、現在はコロナと共に事業を進めている。事業の見直しを含めて総合戦略を推進していきたい。
  - 当初の想定と現在は状況が異なってきている。次期総合戦略では危機的状況を加味して、市民がわかりやすい K G I の設定をお願いしたい。
  - 目標と施策の繋がりを説明願いたい。
  - 例として、施策 1 - 1 には 5 つの事業があり、それぞれの事業に関連した事業がある。それぞれの目標達成に向けて各事業に取り組んでいる。
- 目標 2 「新しい人の流れをつくる」について
- インバウンドの推進について、現状ではなかなか推進できないのではないかと。今までの取り組みとこれからの展望について教えていただきたい。
  - これまでは海外の販路開拓とともに、中国などからも訪日観光客が来ていたが、今年は海外の E C サイトでの通販展開やインフルエンサーによる周知などを実施している。
  - 今後の見通しはどのように考えているのか。
  - 群馬 D C は実施出来なかったが、アフター D C やオリンピックもある中で、できる範囲で P R に努めたい。
  - D M O（観光地域づくり法人）について沼田市は関係しているのか。
  - 商工会議所が事務局となっており、市が実施していない事業は総合戦略の取り組みには含まれていない。
  - 沼田公園の発掘調査の目的、期間とその後の展望、野球場の利活用について伺いたい。
  - 市の史跡から国の史跡となるように沼田城の状況を調査している。約 5 年間でお堀や本丸跡の地中調査を実施。テニスコートではお堀や櫓の跡が確認され、

全貌を突きとめるための調査を実施している。野球場は現在、公園の広場として使用いただいている。

○何のための全貌調査で、誰のための事業なのか。

●古墳の調査と同じ位置づけで、何かをつくるための調査ではなく、当時の状況を調査している。

○奈良古墳の調査と同じ認識でよいか。

●奈良古墳は残っているため目視できる。例えば、沼田南中学校を建設する際の調査では、弥生時代の遺跡が確認されたが、沼田公園についても同じような調査である。

○商店街の大正ロマンの街づくりや久米邸移転に経費を投入して効果が見込めるのか。

●久米邸については、沼田市と縁が深いことから移築を決定した。沼田公園を整備した久米民之助氏を再認識し、大正ロマンの事業の一環として移築を進めている。

●商店街の人口は減少しており、外から来る方との交流により商店街を賑やかにしたい。上之町の一部を「にぎわいの核」として位置づけている。11月には観光バスを呼び込み、街を歩く観光客が多く見られた。

○バスに補助金を出して、観光客へ買い物チケットを配っているが、来た人から「何も無かった」との感想も聞いている。逆に沼田市のイメージがダウンしたのでは。受入体制を整えてから迎えた方が良いのではないか。

●日帰りバスツアーには1台4万円を助成しているが、市内で食事や買物をしていただくことが条件となっている。バスが247台、8,300人が沼田市を訪れており、3,000万円ほどの経済効果があった。

○自然減、社会減の状況の中で、移住定住の社会増への今後の見通しについてはどうか。

●トライアルハウスはコロナの影響で貸し出しを中止しているため利用者は少ないが、移住された方は令和元年度で6世帯15名おり、少しずつ増加の傾向にある。現在はオンラインによる移住相談会を実施しており、まだ移住へ繋がっていないが、トライアルハウスでは令和元年度に36組86名が利用いただき、関係人口に繋がっている。

○移住コンシェルジュや地域おこし協力隊等の分析と見通しについてはどうか。

●地域おこし協力隊のうち、1名は薄根地域の農泊などの事業で関係人口の増加に貢献している。もう1名は技術継承のため下駄の製造に従事している。移住

コンシェルジュはお試し住宅利用の際の対応などを行っており、すぐに移住の数字には繋がらないが、きめ細やかな対応を続けていくことで関係人口を増やしていきたい。

○中之条町や前橋市などは横断的に連携できるような体制を作っている。他自治体の取り組みなど参考に新しい方法に取り組んでいただきたい。

●オンラインのイベントにも参加しているが、今後は更に専用サイト等を利用して沼田市を発信し、移住促進を図りたい。

○移住の目標数値はどのくらいか。

●令和元年度が6世帯15名、その前年は6世帯10名おり、同様あるいはそれ以上を目標としたい。

目標3「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」について

○やって良かったという取り組みを伺いたい。

●どれも少子化対策であり、子育てするなら沼田市とPRしている。妊娠から出産子育てまでを子ども課と健康課で連携し、相談窓口の一本化を図っている。結婚支援ではハッピープロジェクトとして、出会い創出事業を実施。55組のカップルが誕生している。

○子ども広場は評判がいい。

○ハッピープロジェクトでは面白い事業をしているが、出生率などは横ばいであり、新たな取り組みを加えて欲しい。

○コロナにより現場の方のケアが重要。医療、福祉など現場の補助が必要ではないか。

●緊急事態宣言が出され、社会活動が停止したが、停止できない分野が医療、福祉であり、そういう分野への支援は国の施策に加えて、沼田市としても慰労金を給付しており、保育従事者へも市独自に支援。社会活動を支えている方の支援は今後も考えていきたい。

○各現場が崩れないように、柔軟かつ潤いのある施策を引き続きお願いしたい。

○合計特殊出生率は沼田市としては維持できているのか。

●中学生を対象とした未来のライフデザイン学習の実施や学童クラブでは子どもと赤ちゃんが接する機会を設けている。

○1人の女性が出産する子どもの数だけではなく、対象女性の数もあるとわかりやすい。

○保育と医療と介護だけでなく、障害分野でも慰労金を検討していただきたい。取組内容とアクションプログラムが同じ内容のものは見直しを行い、小児科や

産婦人科の確保には、助成金を出すなどの具体的な取り組みを実施していただきたい。

目標 4「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」について

○地域の拠点づくりは文化やスポーツなど世代に関係なく交流ができるような仕組みになると良い。何か具体的な展開をされるのか。

●アクションプログラムに各地区での拠点整備とあるが、来年度から6地区（利南、池田、薄根、川田、白沢、利根）の各公民館をコミュニティセンターにする予定である。

○買い物不便地域について移動販売などを活用していただきたい。

●移動販売事業者と高齢者の見守り協定を結んだ。利用者数が増加するよう関係者と連携を図りながら実施したい。

○ふるさと納税の収支について、去年は赤字だと聞いたが今年はどうか。

●支出が確定していないが、収入は昨年度より増えている。返礼品を増やして努力をしている。

## 2) 提言書について

事務局から修正、追加内容を説明

○SDGsの観点から障害を抱える方について触れた方が良い。

○障害者施策を特別に推進する場合は障害者の文言を加えた方が良いが、全ての方という意味では、あえて記載しなくても良い。

○事業の構成図があるとよりわかりやすい。

○少子高齢化や人口減少により、地域社会の活力が低下するなどの様々な懸念が生じている。住む人が安心して暮らせる活力ある地域づくり、安定した生活が送れることが大前提であり、生活環境の自立が好循環として市外への転出を抑制する。一過性の対処療法ではなく、持続可能な取り組みを実施し、安全で健康的に心豊かに誇りを持って暮らしていける街づくりが重要である。

○拠点整備の項目にテレワークなどの多様な働き方を支援する文言が入った方が良い。

### 【アドバイザー】

子どもや高齢者と障害者は概念が違います。前者は時間的な概念であり、障害は状態ですから、別に記載された方が、ご意見に添うように思います。障害者の方の諸課題を取り扱うことも含めて、少子高齢化の中で、別のアプローチで表現して位置付けることも1つの方法ではないかと思います。

- 少子高齢化としたときに障害の方と関わりがある方はイメージできるが、一般的にはイメージできないのではないかな。
- みんなの中に障害者を含めるのは当たり前だが、みんなと言ったときに障害者が含まれていないのが現実である。
- 全ての人には障害者が入っており、SDGsはもっと広い枠組みで捉えた概念。かえって障害者と区別してしまう方が良くないのではないかな。

**【アドバイザー】**

SDGsには「全ての人に健康と福祉を」とあるので、この表現だと障害のある方も含まれています。本席での議論はこれからをどうしていくか前向きの施策提案で心配ないと思います。文言に心配な点があれば、必要に応じて(注)をつけ、危惧される点の誤解が生じないように配慮する記述にしては如何でしょうか。

- 障害者も健常者も一緒に、スポーツでも特別扱いをしない。例えば施設を建設するときも男性トイレ、女性トイレ以外に性的少数者も利用できる場所をつくるなど、全ての方を含めて受け入れ、みんなを進めていくことが望ましい。
- 文章で説明があればわかるが、何もないとわからない。
- 読む方の受け止め方はそれぞれなので、誰もが納得できる文章にして欲しい。

**【アドバイザー】**

「2目指すべき将来像」の項目に説明を入れるのではどうでしょうか。その中に、生活、安全、福祉、健康、環境、教育、文化、スポーツの文言があるため、読んだ人がわかるように関係付けられる表現があれば課題がクリアできると思います。

- 地域だけで自立して実施するのではなく、地域と行政が右足、左足となり、一緒に歩んでいく形が良い。

**【アドバイザー】**

地域自治型生活の取り組みについて、市民を基本に、自覚を深めるという提言になると思います。誰も予想しなかったパンデミックで市民生活も行政も、政治も経済も、従来と異なる変化を求められています。沼田市の未来の暮らしに必要な問題点を議論いただきましたが、パンデミックが無かったとしても、社会は地域自治型生活の重要性に気づき始めています。世界は確実にグローバル化を加速させ、その分国境は低くなっています。地域の特性が住民のプライド醸成に結びついていく取り組みが必要です。

障害者の文言の議論も人に優しい社会への提言を意図した意見です。あらゆ

る分野で多様化が進む時代に、国籍や立場、年齢、性別を含め、ヒトとヒトを結びつける扉の入口が柔軟かつ豊かな実りあるものに向かって開かれようとしています。アクセシビリティ（どこでも誰でも繋がれる）が、これからの市民目線からも重要な視点で、将来の発展の鍵であるという論拠がここにあるのです。その中心は市民の皆さんです。ここに住み続けたい願いや意志が誇りにつながり、その思いが、地域に住まう人々のプライド発信を促すことになればと思います。

### 3) その他

利根沼田夢大学ではクラウドファンディングを活用して、映画上映資金等を募集しているので、支援をお願いしたい。

(事務局から)

本日のご意見を踏まえ、生方会長、篠田先生と提言書をまとめ、市長への提言書の提出は生方会長と小野里副会長にお願いいたします。

#### 【五十嵐副市長】

2年間真摯に議論いただきありがとうございました。提言を受けてどのように市政に活かしていくかが私たちの課題です。広報力は市民の誇りを発信することであり、それが地域への愛情となり、街づくりの原動力になります。少子高齢化は弱い立場も含めて全ての人々が安心して暮らせるようにネットワークや支え合い作りが課題となります。プレイヤーは市民であり、お互いに支え合い、主体的に地域課題を解決していけるような姿が市民協働の目指すべき姿です。市民協働は行政と市民が協働して進めない限り、地域の活動は進まないため、まずは職員の意識改革を進めます。

今年度、市民協働課を設置し、来年度は社会教育施設としての公民館を地域の拠点として、コミュニティセンターに移行します。行政がどのように地域を支えていくかが重要で、市の取り組みや枠組みを検討し、皆さんの提言を活かせるように努力してまいります。

(5) 閉 会 (事務局：企画政策課長)